

2023年3月5日

「悪霊追放の業」

ルカによる福音書 11:14-26

竹島 敏牧師

イエスが神の指の業により一人の人生を悪霊から解き放つという、人々を驚嘆させた業が示すものは何でしょうか。

それが魔術師のような悪霊の力によるのであれば、そこにもたらされるものは魔術師を拝み、それに従うような新たな誘惑でしかないといイエスは説いています。20節において、イエスご自身が神の指となって、そのように神と一体となって神の力が働く時が来ていることを知らせようとされました。そして神の指で悪霊を追い出し、神の力の働きである証拠に、ここに神の国が到来していると告げています。また23節においては、「私に味方しない者は私に敵対している」と非常に厳しい表現で、私達にイエスと共に神の指の業を推し進めていくよう促しを与えています。中立はありえない。イエスと共に神の業に参加しない人は悪霊の業を黙認しているのだと。

教会とは、そのために「召されたる者の集い」であり、神の指の業に参加し、「天に成るごとく地にも成るように」、教会が神の業に仕えるのです。もちろん、全ての人が同じように力を出し合えたわけではなく、年齢や体力、病気や障碍のあるなしなどによって違いはあったことでしょう。具体的には何もできない、祈ることしかできない、そういう人もいたことでしょう。それでも、何ら軽んじられることなく、一人一人が自らに与えられている賜物を謙遜に見つめ、喜びをもって献げ、集められた実りを分かち合って、皆が神の国を目指して歩んだのです。神の国とは、主イエスを中心に全ての関係性が対等に築かれている場の事です。

24節に象徴されるような今もある「この世の諸霊」による様々な誘惑から全ての人を解き放ち、神の国に向かう道へと立ち戻らせてくださいますように。神の御手の働きに参加しようとする一人一人に、聖霊の助けと導きが与えられますように。